

第 48 回児童福祉審議会子ども・子育て分科会議事録

日 時 令和 8 年 4 月 9 日(木) 11:00～11:30

会 場 市役所本庁舎 5 階 正庁

出席委員－石蔵あぐり、伊良子あや恵、小幡純、木津りか、久保山茂樹、斎藤紗代、新保幸男、竹内英樹、永松範子、藤本孝司、古舘陽子、宮崎教代、宮田丈乃、安田泉（五十音順、敬称略）

欠席委員－磯部慶子、岩波啓之、柳田帆香（五十音順、敬称略）

横須賀市小学校及び中学校校長会からの推薦委員（候補者選定中）

事 務 局－子育て支援課 窪課長、角田課長補佐、松枝主任

子育て支援課（放課後児童対策担当） 田中課長

子育て支援課（公立保育園再編整備担当）小池課長

こども家庭支援課 椿課長

こども給付課 宮治課長（欠席）

児童相談課 深井課長

地域健康課 神藤課長

支援教育課 橘課長

傍聴者 1 名

1 開 会

会議定足数報告

本分科会委員 19 名中、半数以上となる 14 名出席のため、児童福祉審議会条例第 5 条第 3 項「委員及び臨時委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない」に基づき、本分科会は成立したことを報告。

2 議 事

(1) 会長の選出及び副会長の指名について

3 報告事項

(1) 第三期市町村子ども・子育て支援事業計画変更への対応について

4 その他

5 閉 会

【審議結果】

- (1) 会長は互選で新保委員、副会長は会長が竹内委員を指名した。
- (2) 報告事項について了承された。

【意見等概要】

4 その他

(古舘委員)

長年横須賀市の子育て支援に関わっており、以前は「田浦青少年自然の家」や観音崎のキャンプ場を一泊保育で利用したが、現在は市内にそのように利用できる施設がなくなってしまった。先ほどの全体会の中で「全天候型遊び場」の話があったが、屋内だけでなく屋外で自然に触れられる施設を充実させると子育て世帯も訪れてくださるではないか。外に出ると子どもたちはとても生き生きとしているため、アクティブな活動の機会を拡充すると良いのではないか。

(宮田委員)

横須賀市の施策ではないが要望としてお伝えしたい。令和8年度から学校給食費の無償化が始まったが、3～5歳児の幼児教育の部分については有償のままであり保護者負担が残っている。子育て支援の一環として、無償化を国へ要望してほしい。横須賀市のためだけではなく、多くの子育て世帯のためご尽力いただきたい。

施設給食はとても大切なものである。地元の食材を調達し、園で調理・提供しており、乳幼児の発達には欠かせない。食育の一環としてぜひ要望させていただきたい。

(永松委員)

先程のキャンプ場のお話を聞いて思い出したが、以前「くりはまみんなの公園」という施設があったがサッカーチームの練習拠点として整備され、また神明公園も敷地の一部に横須賀市総合医療センターが移転するなど、子どもたちが遊べる公園が減ってきている。現存する公園も禁止事項が非常に多く、子どもたちが外でのびのびと遊べる環境がない。学校の校庭開放も夏は17時まで、冬は16時までと時間制限がある中で子どもたちが自由にのびのびと遊ぶことができない。最近の子どもたちは野球熱が高いが、クラブチームに入らない限り野球を楽しむ環境もない。子どもたちの過ごす環境は大分厳しい状況であることを理解いただきたい。

(斎藤委員)

横須賀で子育てをされていて感じたこととして、学童の利用料が高いと感じる。学校内に放課後にも過ごせる場所を作っていただき有難いが、利用時間が短く夏休みは利用できないなど使いにくさを感じる。病後児保育についても現状が分からず使いづらさを感じたため利用したことないが、施設数が増えるのは良いが中身がどうなっているのかが気になった。

全天候型の遊び場の重要性は子どもが小さいころから感じており、「大矢部みどりの公園」の完成を心待ちにしている。先ほど「くりはまみんなの公園」と「神明公園」の話があったが、先日同じ久里浜にある「JERA park YOKOSUKA」を訪問した。全天候型ではないがとても広大で良い場所であり、こういった施設を活用できたらと感じた。

(安田委員)

こどもの遊び場についての沢山の素敵なお意見を伺うことができ、もし自分がこどもの立場だったら、

このように自分たちに寄り添ってくれる大人の存在をととても有難く感じる。現在自分が感じていることとして、こども、特に中高生・ティーンエイジャーにとっての家庭と学校以外の第三の場所となるような拠点があれば良いと考えている。「家庭」「学校」の2つに世界が定まってしまうと、例えば学校でうまくいかない、家庭で不和がある、あるいは両方で、となってしまうとこどもが安心して息を吸える場所がなくなってしまう。フリースクールや通信制高校のサポート校などもあるが、学費が高額であることを理由に家での勉学を選択したものの、家庭不和のため心に問題を抱えてしまうという話もきく。こういった状況を踏まえ、こどもにとって家庭と学校以外の第三の場所のようなもの、例えばコミュニティセンターや青少年の家を活用し、こどもが自由に立ち寄って勉強や話しあいができる場所があれば良いと感じた。

(新保会長)

第三の場所に関連して、国のこども家庭審議会での議論の話をさせていただく。基本政策部会で「PACEs」という概念が報告書の中で出てくる予定であるが、被虐待体験「ACEs」で苦しい思いをしたこどもたちに対して安心して過ごせる第三の居場所を確保することによって、少しずつ心穏やかな状況に近づいていく環境を用意することが地域社会の中で必要なのではないかという発想から生まれたものである。ACEsによる被害体験をPACEsによって改善する可能性を高めていこうという議論である。

本日出てきたいくつかのご発言はそれに連なることと思われ、これからの横須賀にとって必要な考え方であると思う。

(石蔵委員)

子育て時代に学童探しで大変苦勞をし、学童が決まらなければ転校しなくてはならないくらいの状況に追い詰められた経験をした。一方で学童を運営していた経験もある。このような中で、こどもたちをのびのびと遊ばせる場所が当時と比較し減少していると感じる。夏の暑い時期、こどもたちはどうしているのだろうと丁度考えていたところだったので、本日皆さんのお話をきいて大事な問題であると感じた。

「くりはまみんなの公園」がサッカーチームの練習拠点となり、「神明公園」も敷地面積が半分となった。2施設ともとても良い場所であったが、こどもたちが自然に触れて遊べる場所が減少していることがとても気になっている。また安田委員から中高生の居場所についてお話があったが、自分が中学生の時は青少年の家を集っていたが、現在は施設がどんどん減少し、居場所も減っていると感じた。

(伊良子委員)

横須賀市こども会指導者協議会に長年所属しており、過去に観音崎で薪割り体験や飯盒炊爨を体験できるワンデーキャンプの施設を利用していたが、数年前になくなったと知り、何故良い施設が減っていくのかおかしと感じていた。こどもの居場所について話し合う全国的な会議に出席しても、具体的な結論や次への行動に繋がらず、翌年も同じような話し合いを繰り返しており、問題の解決に至っていない。田浦青少年自然の家も令和5年に利用できなくなってしまったため、現在はソレイユの丘でキャンプを実施することで、こどもたちの新たな楽しみになればと考えている。

中学生から22歳までの会員で構成されているジュニアリーダーズというボランティア団体がこども会指導者協議会と一丸となって活動しているが、年代の近いジュニアリーダーズがこどもたちと遊びを通じて関わることで、改めてこどもの居場所づくりが大事であると感じた。居場所をなくすのは簡単だが、その後の代替となる居場所づくりが不十分に感じるため、もう少しこどもたちのための施設・居場

所があれば良いと感じる。

(小幡委員)

「こども」とひとくくりにしてしまっており解像度が低い。乳幼児、小学生低学年・高学年、中学生、高校生でそれぞれレイヤーが異なるのではないか。「こどもの居場所」という言葉を聞いても、自分のこどもの年代によってそれぞれイメージする場所が違うと思う。年代に応じレイヤーを改めて議論することで解像度があがるのではないかと感じた。

(新保会長)

委員の皆様から、主に遊び場などについてのご意見が多くあげられた。もう少し丁寧に議論して実行に移していくことが必要であると感じた。

(藤本委員)

遊び場について。昨年田浦小学校と走水小学校が閉校となったが、校庭を開放してほしい。

先日熱海市の旧網代小学校を視察したが、現在は民間が管理するまちの交流拠点となっており、グラウンドでこどもたちがキャッチボールをするなど自由に遊んでいた。このような状況を横須賀にも作ってもらいたい。工夫次第で自由に遊べる場所ができるのではないか。

*この議事録は、委員等の発言を事務局において要点筆記したものです。

以 上